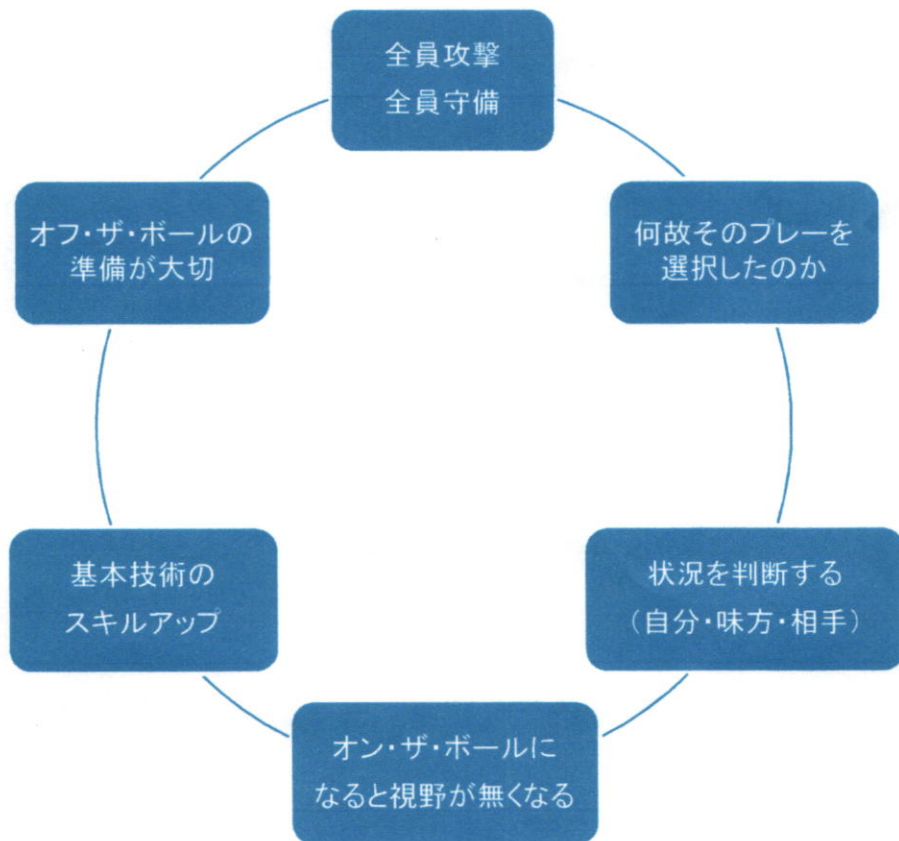


目指すサッカー



- : 全員攻撃・全員守備 …… ポジションに囚われない自由な発想でポジション・プレーを選択する
- : 何故そのプレーを選択するのか …… 次のプレーを意識する
- : 状況を判断する(自分・味方・相手) …… パス(ダイレクト・トラップ・シュート) ドリブル(突破・時間・スペース)
- : オン・ザ・ボールになると視野が無くなる …… ボールをコントロールしている時の視野はない
- : 基本技術のスキルアップ …… 自分のイメージ通りのボールコントロールが質の高いサッカーに繋がる
- : オフ・ザ・ボールの準備が大切 …… 次のプレーに繋がるイメージを作る(第三の動き・コーチング)

指導方針

① 方針

「勝つこと以外は、価値がない」という考え方ではなく「勝つために全力を尽くす」ということを学ばせるとともに、「今後の成長のために今、何が必要か。」を個々の団員について考えながら、スポーツを楽しむ喜びと、それによって得られる健全な身体と精神を育成する。

② 基本的指導理念

- a、日本スポーツ少年団の指導理念を基本とする。
- b、団員ここに対する指導の基本は、想像力・創造性などの自由な要素を重視し、自分自身の判断力とともに何事についても自分自身の意図をはっきり「言葉」で伝えられるように指導する。
- c、集団行動に対する指導の基本は、「協力・信頼・思いやり」による集団としての秩序に対する理解を重視し、チームワークを確立させるよう指導する。

③ 学年に応じた指導方針

1・2年、3・4年、5・6年というグループに応じ、チームとして統一した考えを基に目標を持たせる。その理由として、団員の発育・発達に個人差があるものの統一した考えで、目標を持つことでその効果が期待されるからである。

- a、1・2年生
遊びの要素を取り入れ、体を動かしボールを追う事によって機敏さ・身のこなし・バランス感覚等色々な動きの基礎を作る。
- b、3・4年生
サッカーの面白さ、楽しさを理解させるとともに基本的な技術に関して正確にプレーできるように指導する。
- c、5・6年生
創意工夫・考えながら判断して、プレーする習慣をつけるとともに組織として基本戦術を理解できるように指導する。

④ 団員個々に対する指導方針

- a、自分自身を考え、判断する事を重視させ仲間と話し合い、その子供自身に考えさせる「思考」という過程を踏ませる。
- b、常に自分の動きは正しいか、良かったのか悪かったのかを判断し、次にどのように取り組んでいくかを自らが考えられるように指導する。
- c、お互いに助け合う気持ちを持たせる。